

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
公衆栄養学 I	2 年次	必修	講義	2 単位（30時間）	真島 和徳 ※
授 業 概 要					
公衆栄養学の概念を把握し、人口問題、国民の健康・栄養の現状と課題等を踏まえて展開される栄養政策を学ぶ。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養とは、人々が生活する自然・社会環境の中で、健康という観点から望ましい栄養・食生活のあり方を理解し、説明できる。</li> <li>・わが国における健康・栄養問題の歴史的な流れを踏まえ、現在から将来にわたる栄養・食生活上の課題を整理し、説明できる。</li> <li>・国、地域、職域、学校その他で展開される公衆栄養プログラムを、計画・実施・評価するための法律的・制度的な基盤を理解し、説明できる。</li> </ul>					
実務経験のある教員					
真島 和徳：新潟県(病院、保健所等)での現場経験を踏まえ、地域・職域等における公衆栄養活動についてどのように展開されるのかを概説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	公衆栄養学の概念 意義、栄養士法				真島 和徳 ※
2	公衆栄養学の概念 公衆栄養活動の歴史と管理栄養士				
3	健康・栄養問題の現状と課題 少子化と長寿社会状況				
4	長寿社会における健康問題				
5	医療統計による健康問題				
6	食環境の変化 食料流通と食料自給率				
7	諸外国の健康・栄養・食料問題				
8	栄養政策①	公衆栄養学関連法規 健康増進法			
9		国民健康・栄養調査 目的と沿革 調査方法			
10		国民健康・栄養調査			
11		食生活の変化			
12	栄養政策②	実施に関する指針とツール			
13		公衆栄養学関連法規			
14		国の健康増進基本方針と地方計画			
15		諸外国の健康・栄養政策			
学 習 方 法					
教科書や配付資料を中心に医学の進歩、食生活の変遷、社会環境など変化を見据えながら公衆栄養学の概念から発展を学ぶ。重要なキーワードや内容は教科書や資料にある。重要項目を抜き出し、ノートにまとめ、自らも励むことを望む。月曜試験は、基礎的な事項を出題するので、復習を行い、理解を深めることほしい。					
評 価 方 法					
〔評価方法〕 欠席・遅刻、早退が極力ないことが基本である。科目終了試験は60点以上を合格判定とし、月曜試験（評価量15%）を含めて、成績の評価を行う。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕 健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」改訂第8版（吉池信男/林宏一編：南江堂）					
〔参考書〕 わかりやすいEBNと栄養疫学（佐々木敏：同文書院）栄養データはこう読む（佐々木敏：女子栄養大学出版社） 国民健康・栄養調査の報告（健康・栄養情報研究会編：第一出版） 国民衛生の動向（厚生統計協会）公衆栄養マニュアル（南山堂）食事調査マニュアル（南山堂） 栄養調理六法（新日本法規）日本人の食事摂取基準（2020年版）（第一出版）等					